

トピックス

まほら

まほらとは～丘や山に囲まれたすぐれたよい所～
古事記「中巻」より

第18号

令和元年 8月発行

自然に学び、地域に生かす

出雲土建株式会社
建設事業部 緑化事業課



IZUMO
DOKEN

TEL 0853-22-0388

FAX 0853-22-0377

Email: izd-ryokuka@i-doken.co.jp

「神門通りの松並木」6本に根回しを行いました！

平成31年3月



神門通りにある大鳥居と松並木は、小林徳一郎氏によって大正4年に寄進されました。当時松を280本植えられ、今では80本余りが残り神門通りの景観の重要な要素となっています。

神門通りは平成の大遷宮に向けて無電柱化、石畳舗装などの大規模な整備が行われましたが、大鳥居周辺はまだ整備が行われていません。大鳥居南側の現在の宇迦橋は昭和12年の架橋後、82年の歳月により老朽化が進み、新しい橋に架け替えが行われます。工事には仮橋が必要なため、このルートの松並木は一旦移植の必要があり、今回根回しを行いました。

～根回し、移植について～

最近では、物事がうまく進むように事前に説明を行い了解を得ることを指す言葉として使われますが、元々は植物を移動するのに先立ち、根の周囲を切り詰めて細根を発達させ活着を促進させる事前の準備作業の事を言います。

また、「移植」という言葉も本来は植物の移動を表しますが、最近では生態内移植(臓器移植)やコンピュータのプログラム、外国の文物・制度などを自国に取り入れること等に使用されることが多くなりました。2つとも元々は植物から生まれた言葉です。



▲ 大鳥居北の西側1本目のマツ(№6)根回しの状況

「神門通りの松並木」6本に根回しを行いました！

平成31年3月

事前の試掘調査(H23「島根樹木会」実施)によって車道側には殆ど根系の発達が診られなかったの、歩道側(縦断方向)に長く根鉢を想定して掘削を行いました。掘り出した根系の直径3cm未満は切断してそれ以上のものは環状剥皮を行い植物ホルモン剤(オーキシ)の塗布を行い、良質土(埴土+木炭)で埋戻し発根を促進させました。



▲表層(インターロッキングブロック、アスファルト)を除去



▲エアースコップ(圧縮空気掘削機)で床掘



▲掘り上げた根系



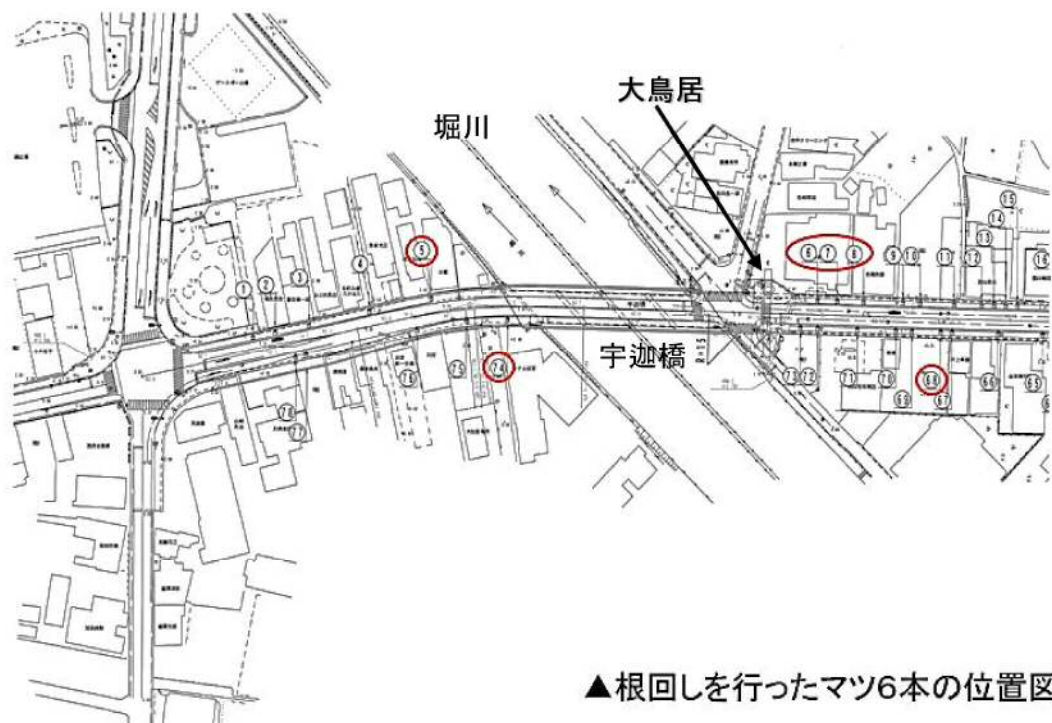
▲根の皮を巾15cm程度剥ぎ取り(環状剥皮)



▲環状剥皮した根系



▲良質土(埴土+木炭)で埋戻し



▲根回しを行ったマツ6本の位置図

世界遺産「三保松原」(静岡県)でも根回しを行いました！

平成31年3月



▲三保松原



▲三保松原と御穂神社を結ぶ参道「神の道」

三保松原は富士山の構成資産の一つで約3万本の松があります。その松原と御穂(みほ)神社と結ぶ参道「神の道」には樹齢300年前後の松並木が約200本ありますが、近年松くい虫等の被害により枯れて景観に支障が出てきました。そのため松原で育った松を移植するために根回しを行いました。



▲エアースコップによる掘削



▲環状剥皮をした根系



▲良質土に木炭を混合して埋戻し

隠岐の島町「加茂のビヤクシン」移植前の枝おろし剪定を行いました！

平成31年2月

ビヤクシンはカイズカイブキの原種で太平洋側の海岸に自生する木で、以前は韓国の鬱陵島にたくさんあり、明治のころ渡航し、伐採をして持ち帰って用木として使っていたそうです。当時、鬱陵島に行った記念に持ち帰って苗を植えたと推測されるビヤクシンが隠岐の島町で大きくなり2本が現存しています。そのうちの1本を竹島記念館(隠岐の島町)に移植したいとの要望がありましたが、あまりの大きさから移動が困難なため、今回は樹冠を縮小させる枝おろし剪定の作業を行いました。



▲山陰中央新報記事 H30、6、27

ビヤクシンはイブキ(伊吹、学名: *Juniperus chinensis*) ヒノキ科のビヤクシン属別名ビヤクシン(柏榎)、イブキビヤクシン(伊吹柏榎)、シンバク(榎柏、真柏)。多くの変種、品種がある。

鬱陵島の木 隠岐に現存 110年前 苗木持ち帰る?

木材売方 密接な関係裏付け

約110年前に韓国・鬱陵島で木材売方イカ胤(クシ)などに携わった隠岐民が鬱陵島から持ち帰ったヒノキ科の「ビヤクシン」とみられる大木が島根県隠岐の島町に2本現存することが20日、日本国際問題研究会(京大)と共同で調査した。島民が鬱陵島に足を運んで経済活動を行い、歴史的に密接な関係があったことを裏付ける。調査した専門家は「隠岐の歴史を学ぶ上で貴重な発見で、教育や観光に生かせる」としている。鬱陵島は竹島、島根県隠岐の島町(韓国名・独島)の北西約90キロに存在する。入島を禁じる「空島政策」を朝鮮王朝が1400年代前半から約160年にわたって行った結果、人間の手に鬱陵島の歴史の関わりが分からなかったため、ビヤクシンの強さを示す発見と、歴史的文化的価値があり、保存や活用方法を考えるべき」と指摘した。(隠山鼎志)



▲枝おろし剪定前 樹高12m、枝張り8m



▲枝おろし剪定後 樹高8m、枝張り4m

出雲大社おくにごえり会館「グリーンカーテン」満開です！ 令和 元年8月

出雲大社神楽殿西側のおくにごえり会館に設置してある、グリーンカーテンは、高さ7m長さ17.5mと巨大なもので、宿根アサガオの品種「オーシャンブルー」を今年の5月20日に植え込みました。朝と夕方と、花の色が変わる特徴があり10月一杯まで楽しむことができます。



厚生労働省島根労働局委託事業

55歳以上の雇用促進事業「技能講習会」をしました！ 令和元年6～7月

55歳以上向け、雇用促進事業の技能講習会に今年度は造園が指定され、県内では3か所出雲、松江、益田を会場に行われることになり、出雲会場を始めに6月25日～7月5日6日間、造園の技能講習を行いました。

一日目は造園の仕事について説明を行い現場も見て回りました。2日目からは実習に入り、①作業の準備とロープワーク ②病虫害防除の知識と防除方法 ③刈り払い機の使い方と作業の方法 ④剪定の知識と実習 実習は低木の刈込、マツの芽採り手入れ ⑤技能検定3級課題にチャレンジと多様なカリキュラムとなりましたが、募集定員5名に対し受講者3名でしたので細かいところまで指導させていただく事が出来ました。このような講習会によって造園業の魅力を発信し、これからの造園業の雇用に少しでも繋がれば良いと思います。



▲マツ剪定の様子



▲3級の技能検定課題作成状況

秋～冬期の庭園管理「雑木剪定」の時期です！

樹木は葉から栄養を作り出し自ら供給している生産者です。春から夏にかけて活発に行われます。この間を生育期とよび葉を多くつけることで生育が促進されますので、秋に入ってから剪定が生育上は好ましく生育期の剪定は樹木にストレスを与えることになります。

剪定の目的は一個体の形を作る事だけに留まらず庭全体の景観を考えて行います。遮蔽したい場所などは枝を伸ばすような剪定行います。また、風通しを良くし、病虫害の予防や倒伏対策としても効果が期待できます。